

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	物忘れや、障害があっても、顔見知りの人達と、住み慣れた町で、自分らしく、命輝いて暮らせるよう、誰もが主役で、認知症共同生活事業を地域ぐるみで支え合うことを宣言しております。	○ 地域認知症ケア、ネットワークシステムの構築
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	滅び行く生命の尊厳を守り、障害のある人には親切することが、本来の面目であり、理念に掲げる言葉には、援助者が発案する言葉でなく、利用者が望む思いや、願いごとが其のまま、我々の理念で目的を同じにするとところで、日々本務としております。	○ 介護の在り様などの研修と、チームによる倫理綱領の作成。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	拓かれた施設として事業内容や理念を広報する為、地域ネットワーク推進委員会を始め、病院、コミュニテイ、自治会、老人会などへ足を運び、啓発しています。	○ 御家族様には、面談や、介護計画などの説明の際に、理念などに関する考え方を説明させて頂いております。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩外出や、八百屋さん、ライフ、喫茶店などに出向き近所の人と交流の機会を作っております、	○ 近所の顔見知りの方が、何時でも訪ねてもらえるように裏門戸を開放しております。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人福祉センターの親睦会に参加させて頂き、保育園児のお茶会などを楽しんだり、近隣の中学生達とふれあい、地域の夏祭り、盆踊り大会にも参加させていただきます。又、生活支援ハウスの利用者さんと合同行事の企画開催などで交流に努めています。	○ 今年の夏祭りでは、グループホーム主催で夏祭りを考えており、老人福祉センターとの交流も深めて行けるように考えています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症になった方とその家族には、普通の暮らし、当たり前前の暮らしができるように、地域マンパワーの育成の為、法人本部主催で地域のサポーターに呼びかけて、講習会を開催して参加してもらった。		今後、職員同士で地域貢献のテーマで、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいくことがないか話し合っ行ってきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	真摯に事業内容を見直し、認知症ケアの充実・発展の為、計画的な内部・外部研修の実施をしている。		免疫学や哲学などを教材とした、自然の摂理に学びながら、人間本来の健康的な暮らし方のモデルを發展させ、認知症介護の実際の中にも活かして行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、2ヶ月に1回の開催を予定しているが、現状は3ヶ月に1回ぐらいの開催となって来ている。	○	地域のかかりつけ医の先生方にも、時に、参加してもらい、認知症介護の実際を啓発展開したいと考えています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書の提出や、苦情相談の解決には、その都度、市町村に出向き、より良いサービスの改善に向けての指導や情報を頂き、サービスの質の向上に努めています。		制度の解らない事などがあれば、実務確認を市町村担当者に問い合わせるなどして連携しています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	独居でしかも身寄りのない方は、基本的には、地域権利擁護事業及び、成年後見制度の活用を要請しております。		地域社会福祉協議会と地域老人福祉センター協賛開催する、制度講習会に参加するなどして学ぶ機会を身近に得ました。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	大阪府と市の通達文を回覧し、職員も閲覧の機会を得ています。又、行き過ぎた介護の仕方の報告や、連絡があれば、情報や結果を正しく行為者に伝え、その原因を共に議論し、尊厳の大切さを学び、同じ生を味わえるように実践して行きたいと願っています。	○	人権協議会の要請で、障害者虐待白書のアンケート用紙を使用し、個別面談による聴き取り調査に協力しました。身体拘束廃止に向けての講習会を検討する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>管理者が責任を持ち、契約、解約に関する説明と同意を得て、実務を行い、ご家族本人様の不安や疑問点には誠心誠意努めています。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>私設の第三者委員や市町村、国保連合会、適性委員会の各窓口の連絡先、相談可能日、時間帯を重要事項に記載し、広報しています。入り口には相談箱の設置をしています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>金銭管理預かり出納表に出納額を記入し、御家族様の来苑面会時には、領収書とすり合わせ、計算確認して頂いた上、確認日には、署名印を頂いて管理しております。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族会の立ち上げと、地域推進会議などの参加を呼びかけて、意見、不満、苦情を表せる機会を設けたいと考えています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>職務担当者のメンバー構成による、組織運営会議設置委員会の開催など一考。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>利用者の通院介助など、御家族様が仕事などの理由で同伴できない時は、勤務調整など行い、苑が出来る限りの支援を継続しています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人間関係で離職する職員には、今、一度思い留まるように説得するが、やがては離職して行かれる職員が多い。開所よりこの方、一度も異動は無かったが、この度、サービスの質の向上とチーム育成改善の為、施設内異動を試みた。		これからも、職員の異動や離職の際には、利用者がダメージを受けないように、管理者が利用者によく知り解り易く説明を行います。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部は通年、管理職研修、リーダー研修、一般職研修を企画し、研修や講習会を実践しています。又、日々の申し送りや、ケース会議の議論の中では理念に帰る働きを推進しています。		研修受講者には、内部研修報告書の作成を要請し、研修内容の豊富を報告してもらい、施設長と管理者がその報告書を評価し、添削や指導を行い、長が総論をまとめ、次回もその研修の必要性が高いのかどうか評価しています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市社会福祉施設連盟の分科会に活動参加させて頂いて、勉強会や情報交換の機会を持っていますが、現在は地域の同業者との交流や相互訪問の活動はありません。		地域の同業者との交流と相互訪問の活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいきたいと思えます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が寛げるように、テラスを改修し憩いの場を設け、暫く利用者と離れた時間を持てるよう環境づくりに取り組んだ。	○	チームアプローチの最大化と、ストレス軽減の為に、施設内職員移動を試みました。「天は自らを助ける者を助ける」の諺を箴言と仰ぎ、職員一人ひとりの働きが「知識と恒心」の職業習慣を養い、福祉の大海を渡って行けるよう指導したいと考えています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を採用し、賞与や等級に反映し、モチベーションの向上に努めています。又、法人本部からは、永年勤続表彰を実施しました。		日々、「知識と恒心」とを拠りどころとし精進すれば、私たちのチームでも一流の認知症ケアのエキスパートとなれるのだと叱咤激励しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・ご家族から相談があった場合には、施設に見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらっています。直ぐに入居ではなくお試し利用を勧めている。	必ず、本人と御家族には、施設見学を要請し、聞きたいことや、尋ねておきたいことが無いかを質問し、お部屋の作りや設備、具体的なサービスの内容、運営規定などを説明し、信頼関係を築けるよう対応しています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学を勧め、ご家族の目で、グループホームを確かめて頂いている。その際には、相談や不安な事、求めていること、対応方法などよく聞き、出来る限り、先方の都合の良い日時に合わせるように努力しています。	必ず、本人と御家族には、施設見学を要請し、聞きたいことや、尋ねておきたいことが無いかを質問し、お部屋の作りや設備、具体的なサービスの内容、運営規定などを説明し、信頼関係を築けるよう対応しています。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを評価し、適切な支援を見極め、担当の介護支援専門員と連携して他のサービス利用も含めた対応に努めています。	ニーズ如何では、適切な施設や制度のサービスを受けられるように窓口の案内をしたり、照会などもして参りたいと考えています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学、訪問、お試し利用などを経て、顔なじみになってから利用できるように努めています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の出来る事を見つれたり、職員と共にすることで、本人に役割を担って頂き、職員の知らない事も学びながら、一緒に過ごし、喜怒哀楽を分かち合い支えあう関係を築いています。	○ 掃除、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物、調理、食事の用意、後かたづけ、ゴミだしなど生活全般の参加を呼びかけ、協働での暮らしを築いています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、来苑して頂き、来苑時には、本人とゆっくりと楽しい時間を過ごして頂けるように、居室に飲み物を持って行ったり、椅子を用意しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までのご本人と家族様の関係に努め、両方の思っている事を伝え、職員も話しやすい姿勢を常に心がけています。		より良い関係が築いて行けるように、お互いの思いを受け止め媒介者となって支援して行きます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会が自由にできる事をご本人、家族様に伝え、関係性が途切れることのないよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係把握し、孤立する事がないように、席の配置に配慮したり、時には職員も一緒に関わり合い、全ての利用者が楽しい時間を過ごせるようにしています。	○	食事時には、職員も同席し、利用者の関係性に瞬時に対応できるよう目配り、気配りしています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームでの生活が困難になった場合、関係施設へ紹介したり、サービスの連携をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らしの希望を出来る限り訊かせて頂きケアプランに反映して行きたいと思いません。	静かな時間を用意して、ご本人の希望や意向が表出できるように配慮します。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ゆっくりと関係を築いてから、生活歴や暮らし方、生活環境のことなどを把握に努めています。	暮らしの情報シートなどのアセスメント用紙を使い、把握に努めたいと思います。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月ケア会議を開催し、介護計画の評価を必ず行っています。	センター方式の暮らしの情報、焦点情報などのアセスメントシートを利用し把握に努めたいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回、ご本人に思いや意見を聞き、反映させるような介護計画にしています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化した場合には、その都度、上司に報告し、介護計画を見直しています。又、変化した時、家族報告し、相談した上で作成しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録は日々の様子は、記載出来ているが、ケア実践の結果、気づき工夫の記入は不十分である。	○	すべての職員が介護計画の実践の結果、気づき、臨機応変な工夫の実行や、それに伴う記録の記入を徹底する。又、情報を共有できるようにして行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同施設の2・3階が生活支援ハウスで、屋上での日光浴や、同法人が運営している老人センターでのふれあいへの参加。生活支援ハウス入居者の方との食事会を行っています。		生活支援ハウスで、食事会をし、普段と違った雰囲気を感じて頂き、食欲が出るよう、楽しいひとときにしました。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、警察、保育所、消防などの機関と協力しながら支援している。	○	消防訓練や幼稚園児との交流、書道教室などの依頼をしています。又、市からのお好み焼き屋さんに来ていただき利用者の前で実演試食を行いました。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の在宅サービス、他事業所の在宅サービスが受けられるように、ケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、利用者にとって一番良い方法の支援が出来るようにしています。	○	さまざまなニーズに応じて、問い合わせや、連絡、調整を行い、在宅サービスが円滑に進むように支援しています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者に地域権利擁護事業の紹介を行い、ケアマネジメント等について協働で、権利擁護を推進しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診の際には、現在の健康上の問題や生活状況、行動、言動を含め、家族にお伝えし、受診依頼しています。緊急時など他病院受診の際、職員が同行しています。		本人、家族にかかりつけ医がない場合は、説明、希望を確認し、納得された場合には、照会し、適切な医療が受けられるようにしています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医に毎月1回往診して頂いている。その際には、認知症に関する診断や治療、助言を頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	本町診療所の山本先生に毎月診療して頂き、日常の健康管理や医療活用の支援を図っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された利用者が早期に退院できるように、入院中も顔を見せに行くなど、情報交換に努め受入れ態勢を整えています。		洗濯ものなどの交換・差し入れ援助を行っています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケア体制は未達であるので、変調をいち早く察知し、提携医療機関へ緊急搬送を申し合わせています。		。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と情報交換し、今後の変化や予想される事を踏まえてチームアプローチに取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設へ移られた方とも、本人の家族や施設の職員、病院の看護師、ケースワーカーなどと面談や話し合いを十分に行った上、本人の意向を組んだ細かな情報を共有し、ダメージ防止につとめている。		近隣に住む家族、身内だけでなく、他県に住んでいる方にでも、必要に応じて、今後も住み替え時の環境の変化によるダメージを防ぐよう検討し、支援していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、入居者に対して、人生の先輩であることを頭におき、1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけにならないよう意識し対応しています。又、個々に応じた質問方法、説明の仕方等を行っています。不適切な場合、会議などに議題として話し合っている。		施設内、外研修や、申し送り、会議で日々の関り方、援助方法を確認、注意し合い、さらなる徹底を図る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個々で対応方法を変え、表現を表に出せる方にはその時に傾聴したり、居室内にてゆったりした状況で話したい方には、職員が時間を作り居室で聞かせて頂き、言葉で表現を出し難い方には、本人のサインを見逃さないように、日々注意している。	○	ちょっとした行動・言動を注意し、日々の記録や、申し送りなどに職員間で話し合っていきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは特に決めていないが、掃除や調理の参加を促がし、無理にせず、その日ごとに声かけさせて頂きながら希望に沿った支援をしています。	○	出来る限り、起床、就寝時間、食事時間、入浴時間など自由に出来るよう取り組みたいが、現在の職員では限られてしまう。人員配置、人数の検討や職員のスキルアップが必要であり、今後より良いケアが出来るよう進めていきます。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望に応じ、理・美容院は本人の望むところや、今までに行きつけていた店に行けるようにしています。又、苑でも美容師の資格を持った職員が行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々会話の中で好みを聞き、メニューをに取り入れるようにしている。包丁を使える方には調理をしてもらい、包丁が難しい方には、盛り付けや、後かたづけ、配膳、下げ膳をして頂いてます。食事中は一緒にテーブルで食し、楽しいひと時になるようにしています。	○	利用者に応じて、出来る事、出来ない事を見極め、職員の少しの工夫（声かけ、盛り付けやすいお皿を選ぶ）などにより、できる事を増やして行く支援を心がけて行きます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前には、家族様に確認し、本氏の好みを把握し、又、日頃の食事量を見て、確認しています。医師の診断のもと、配食サービスを利用しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者に応じた、オムツ、パッド、リハビリパンツ、布パンツの使用種類の改善が必要である。排尿意識が低い方には負担にならない程度に記録から排泄パターンを考え、食事前には誘導しています。		排便を促す為にも、食事後にはトイレに座る習慣を試みています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、だいたいの時間帯を決めているが、利用者の体調や希望に合わせて対応しています。羞恥心の配慮の為、女性利用者の中には、男性介助に対して拒むため、女性職員が行っています。		次々に入浴するのではなく、ゆったり入浴を楽しめられるように入居者の希望に合わせた時間帯、回数、入浴時間など対応できるようにしたい。現在人員数により、夜間の入浴は出来ていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休息・安眠出来るよう、夜間帯の訪室など出来る限り音を立てるをなく、1時間に1回安否確認をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々ファイル、情報シートより、入居者の以前の暮らし、仕事などを考慮し、得意の分野で個々の力を発揮できるよう支援しています。又、散歩、買い物に行きたいと希望があった場合は、職員同行にてコミュニケーションを図りながら行っています。		夜間帯では、一人勤務の為、19:00以降希望された場合は現状は難しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい場合には、事務所にてお預かりし、本人の希望の際には、すみやかに渡しています。又、毎月家族様に残金チェックと何に使ったのか説明しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーに行ったり、体調や気温などに配慮し、問題がなければ、周辺の散歩に行けるよう支援しています。		夏は暑い為、行ける時間に限りがあり、夜の外出は、人員体制的には難しい面がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常のコミュニケーションの中で行きたい所や、したい事など聞き、行事の中で実現できるよう取り組んでいます。又、季節に応じて花見や花火なども行っています。	○	家族様も一緒に出来るよう計画にもっと工夫がいる。外出支援には、人員が必要な為、ボランティアと連携し、確保できるよう進めて行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には、携帯電話を持っている方もおられ、持っていない方が、要望された時には、事務所にある電話を使用して頂いています。	○	季節の変わりには手紙や、ハガキを自己作成し、家族様との交流を持ち、相談や要望など言い易い雰囲気作りを、より一層して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定している。仕事の都合等で夜間になる場合でも気軽に面会して頂いています。居室に過ごして頂き、お茶を用意し、ゆっくり過ごして頂いています。	○	来苑時には、職員も積極的にコミュニケーションを図り、少しでも交流を持ち、相談や要望など言い易い雰囲気作りを、より一層して行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていない。本人自信に危険があった場合には、家族様と話した上で、書面を作成するなど、同意を得た上で実施しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		居室内に他者が入るのを拒む方もあり、鍵の開閉は個人管理しています。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	職員全員が救命救急講習に参加し、応急手当、対応に熟知出来るようにする。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	入居者の心身の状態に応じた避難・誘導・搬送の体制を文章にて作成し、いつ何が起こっても対応できるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に起こりうるリスクを説明し、状況の変化があった場合は、その都度連絡を取り、説明及び、対応について家族様とも話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎回1回往診している。体調の変化があった場合には、連絡をとり指示を仰いでいます。別に主治医がいる場合には、状態を家族様に説明し、受診したりし、申し送りにて情報を共有しています。		毎朝10:00に血圧・体温・週に1度、体重測定し、体調の変化には留意しています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも処方薬の確認が出来るように、処方薬の処方薬ファイルを設置している。変更があった場合は、職員間で申し送っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の対策として、毎朝メニューに食物繊維が豊富なバナナを食べて頂いている。又、水分摂取量を把握し、少量の方には、随時水分補給を促がし、日常生活の中で、(掃除)運動を取り入れ散歩にも出かけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア誘導し、自立の方には見守りや仕上げ介助をしています。	○	自立の方でも磨き残しがある為、さりげなくチェックしています。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量をチェック表に記入している。水分量のチェックも同様に記入。水分補給には、ティータイム(10時)、毎食後、入浴後、外出後に促がしています。		いつでも、水分が摂取出来るよう、届く所にやかんを置いている。利用者の中には、ペッドボトルの中に入れ、居室でも飲水できるようにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症を有する入居者へは、食器類はうすめたハイターに浸け消毒しています。居室内、共同フロアはうすめたオスバンなど使用し拭き掃除をしています。	○	換気、気温（外気温差2～3度）の徹底が必要。又、外出後の手洗い、うがい食前の手指消毒の習慣も徹底が必要。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用用品は、ハイター消毒している。食材は毎朝スーパーより配達してもらい、調理後2時間経ったものについては処分しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近には、花を植えている。共同フロアには、絵や民芸品を飾っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓には、うすいカーテンと濃いカーテン2枚使用し、状態に合わせて使い分けている。新聞も置き、いつでも自由に見てもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルの他に玄関付近とLDにソファを設置しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂くようお願い しています。生活スタイルや身体状況に合わせ家 具の配置を考えています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度計をLDに設置している。外気温の差は職員 で調節している。夜間帯も巡回時には、利用者 に合わせ調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置しており、玄関にソファ ーを置き、外出後すぐ休めるようにしてい ます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	各居室に、名前と顔写真を貼り、判り易いよ うにしています。		少し高め的位置にある為、もう少し、低い位置 に工夫がある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 んだり、活動できるように活かしている	玄関先やテラスに菜園、草花を植えて利用者 の方と水やりをしたり、出来た菜物を一緒 に採取しています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内の生活支援ハウスや、隣接する同法人運営の老人福祉センターやデイサービスとの交流に取り組むなど、地域との繋がりを大切にし、一人ひとりがその人らしく幸福に暮らせるよう、常に「利用者主体の介護」を意識して、実践している。